
[成果情報名] 茶園における二番茶摘採後の浅刈りおよび銅水和剤による炭疽病防除法

[要約] 茶栽培では、二番茶摘採後に浅刈りすることにより、無防除でも炭疽病を耕種的に防除できる。また、二番茶摘採後に慣行の整枝を行った場合でも、秋芽萌芽期から1葉期とその1週間後に、銅水和剤を2回散布することで、炭疽病を抑制できる。

[キーワード] 茶、炭疽病、耕種的防除、銅水和剤

[担当部署] 八女分場・茶チーム

[連絡先] 0943-42-0292

[対象作目] 茶

[専門項目] 病害虫

[成果分類] 技術改良

[背景・ねらい]

茶栽培では、夏秋期に中山間地や多雨時の平坦地で炭疽病の被害が発生し、化学農薬代替技術の開発が求められている。

そこで、有機栽培にも対応した化学農薬代替防除技術として、剪枝による耕種的防除および銅水和剤による防除効果について検討する。

(要望機関名 : 生産流通課 (H13))

[成果の内容・特徴]

1 . 茶栽培において、二番茶摘採後に浅刈り (古葉を2枚程度残す剪枝) することで、無防除でも炭疽病を耕種的に防除できる (図1) 。

2 . 二番茶摘採後に刈りならし (慣行整枝、摘採面での整枝) を行った場合でも、秋芽萌芽期から1葉期と、その1週間後に銅水和剤を2回散布することで、炭疽病を抑制できる (図1) 。

[成果の活用面・留意点]

1 . 防除の手引きに登載し、有機栽培に対応する化学農薬代替技術として活用できる。

2 . 二番茶摘採後の浅刈りは、遅くとも7月上旬までに実施する。

[具体的データ]

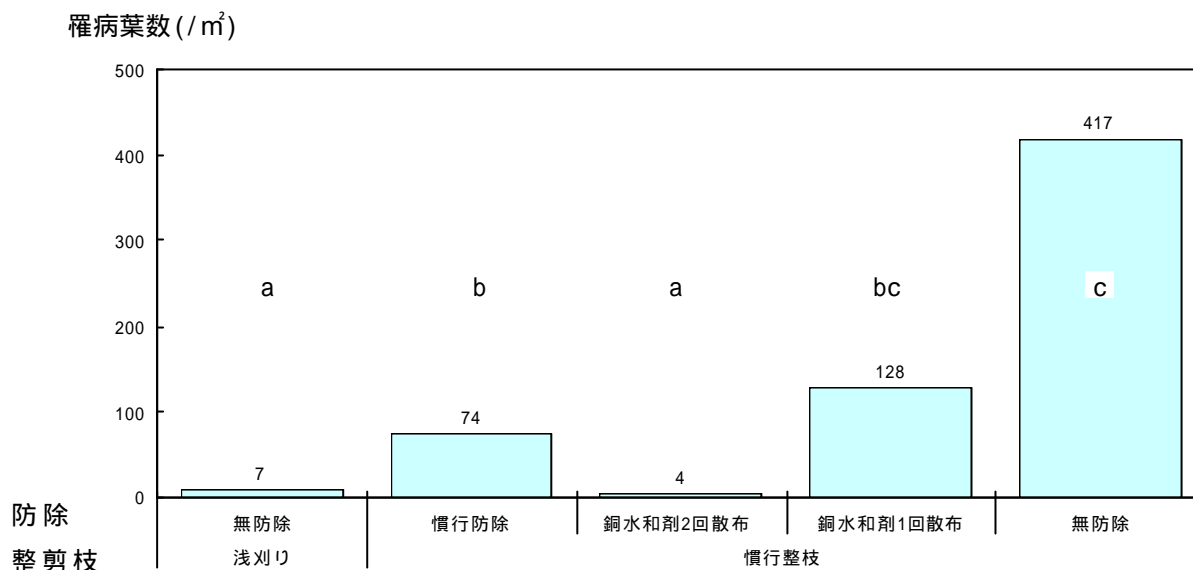


図1 浅刈りおよび銅水和剤による炭疽病抑制効果（平成14年）

注) 1. 浅刈りおよび慣行整枝は7月2日に行った。

2. 罹病葉数は8月13日に調査した。

3. 銅水和剤2回散布区は7月11、18日に、1回散布区は7月11日のみ散布。

4. 慣行防除は7月11日にTPN707F、18日にイメクトリア水和剤を散布。

5. 異なる英文字は処理間に有意差あり (p<0.05 : Fisher's LSD)。

[その他]

研究課題名：茶有機栽培における病虫害防除技術の確立

予算区分：経常

研究期間：平成15年度（平成13～15年）

研究担当者：吉岡哲也、松田和也、中村晋一郎、堺田輝貴、森山弘信、久保田朗